

Graduate School of Tokyo Kasei University



人間生活学総合研究科

*Graduate School of Humanities and
Life Sciences*

博士課程

人間生活学専攻

Doctoral Program in Human Life Sciences

修士課程

児童学児童教育学専攻

*Master's Program in Child Care,
Education and Science*

健康栄養学専攻

Master's Program in Health and Nutrition

造形学専攻

Master's Program in Clothing & Art

英語・英語教育研究専攻

*Master's Program in English Language
and Culture*

臨床心理学専攻

Master's Program in Clinical Psychology

教育福祉学専攻

*Master's Program in Education and
Social Welfare*

「人間生活学総合研究科」の成り立ち

東京家政大学大学院は、平成24年度に家政学研究科と文学研究科を統合し「人間生活学総合研究科」に改組しました。

家政学研究科は平成元年に食物栄養学専攻及び被服造形学専攻を開設し、平成3年に家政学部児童学科、栄養学科、服飾美術学科を基礎として、食物栄養学専攻、被服造形学専攻、児童学専攻を柱として修士課程を築き、博士課程は家政学を核としながらさらにフィールドを広げ、人間生活全般にかかわる探求へと発展させた人間生活学専攻として、それぞれを開設してきました。

文学研究科は、平成8年英語英文学専攻及び心理教育学専攻を設置し、平成12年には財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認可する第1種指定大学院として臨床心理士を養成するため、心理教育学専攻に臨床心理学コース・心理教育学コースを設定しましたが、その後、従来の文学研究から、人文全般に関する学際的探求課題への展開をしてきました。

家政学をさらに深化させつつ、生命と存在に根ざした人の一生と生活全般にかかわる課題探求へと裾野を広げてきている家政学研究科と、従来の文学研究から人文全般に関する学際的探求課題へと展開が進んできた文学研究科とを統合し、人間生活学総合研究科の1研究科とし、修士課程6専攻と博士課程の人間生活学専攻を設置することとしました。

実社会でリーダーとなれる人材を育成します

人間生活学総合研究科は、家政学と人文学の基盤を踏まえつつ、生活学の内容を従来の内向きの「家庭」という枠に囚われることなく、衣、食と健康、福祉から心と保育、教育までを包括した人間の生命活動と生生活活動の探求を深めると共に、グローバル化し、文化的な質の高い生活技術と生活意識を幅広く探求するものと捉えなおすものです。このように2研究科の統合によって、人間生活学総合研究科はこれまでの2研究科内の専門相互の学びあいも可能となり、広く複眼的な視野を持つ有為な人材を養成することが可能となりました。また、修士課程の専攻名称は基礎学部の名称と対応しており、学部と大学院の継続性を明確に示すとともに、新たな今日的課題に応えられるように養成する人材像を明確にし、学修システムの弾力化を図ることによって、学生・社会人のニーズに幅広く応えるものとなっています。

「現場に学び、共に研究し、研究成果を現場に生かせるように!」を本大学院の基本理念とし、そのためには、研究能力と課題解決能力を合わせ持ち、実社会でリーダーとなれる人材育成を目指すと共に、現職社会人を広く迎え入れられるよう、さらに段階を踏んで体制を整えていきます。

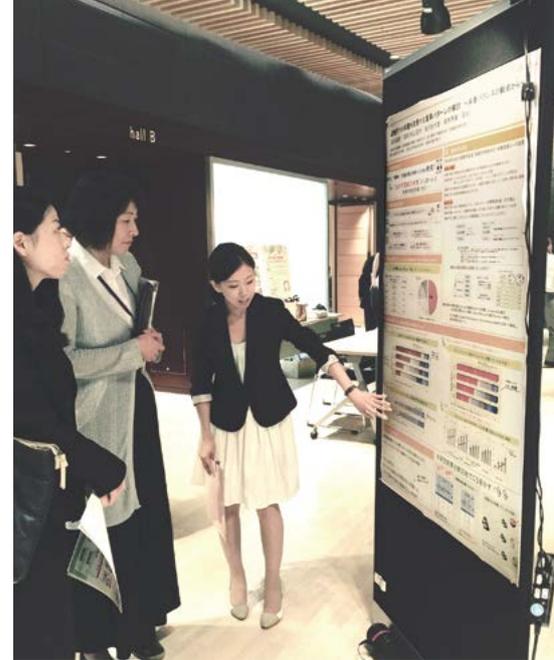
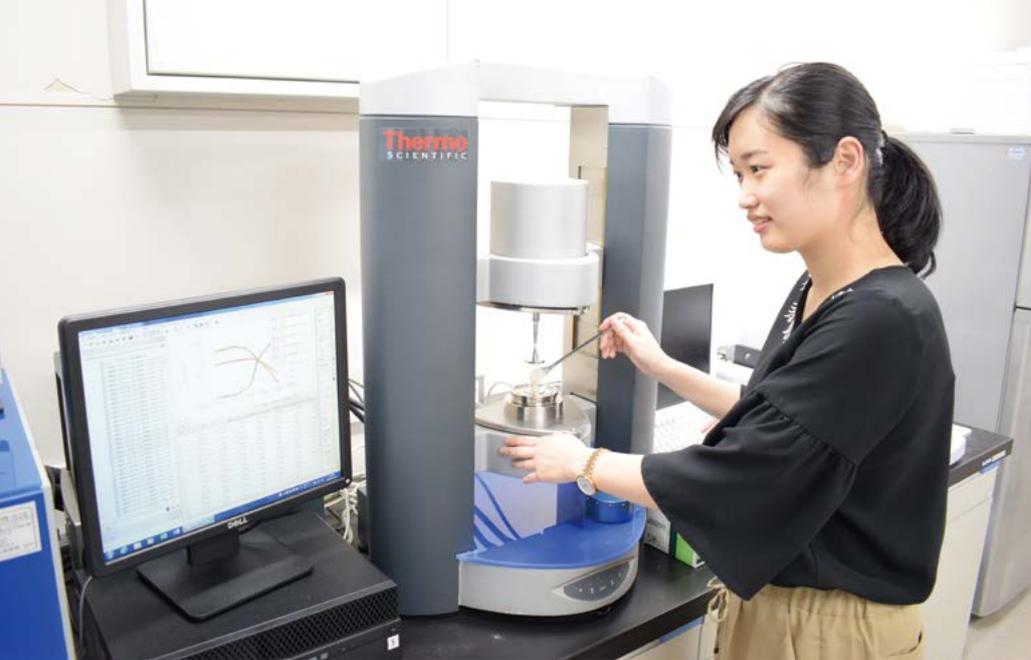
研究科の内容

■人間生活学総合研究科

人間生活学専攻	(博士課程)	入学定員3名	収容定員9名	博士(学術)
児童学児童教育学専攻	(修士課程)	入学定員5名	収容定員10名	修士(家政学)
健康栄養学専攻	(修士課程)	入学定員5名	収容定員10名	修士(健康栄養学)
造形学専攻	(修士課程)	入学定員4名	収容定員8名	修士(家政学)
英語・英語教育研究専攻	(修士課程)	入学定員4名	収容定員8名	修士(文学)
臨床心理学専攻	(修士課程)	入学定員8名	収容定員16名	修士(心理学)
教育福祉学専攻	(修士課程)	入学定員4名	収容定員8名	修士(学術)

■教員免許・資格

児童学児童教育学専攻	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状
健康栄養学専攻	高等学校教諭専修免許状(家庭) 中学校教諭専修免許状(家庭)
造形学専攻	高等学校教諭専修免許状(家庭) 中学校教諭専修免許状(家庭) 高等学校教諭専修免許状(美術) 中学校教諭専修免許状(美術)
英語・英語教育研究専攻	高等学校教諭専修免許状(英語) 中学校教諭専修免許状(英語)
臨床心理学専攻	高等学校教諭専修免許状(公民) 日本臨床心理士資格認定協会 第1種指定大学院/公認心理師 受験資格対応
教育福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状(公民)



人間生活学専攻 博士課程

Doctoral Program in Human Life Sciences

人間生活学専攻（博士課程）は、人間生活学総合研究科（修士課程）の児童学・児童教育学専攻、健康栄養学専攻、造形学専攻、臨床心理学専攻の各領域を融合的・学際的に発展させて研究を探求する場として設置しています。

高度な技術革新と多様な社会情勢に対応するとともに、人間生活を総合的に研究、解析、究明し、学術的研究成果を発信することのできる研究者を育成することを目指しています。

人間生活学専攻（博士課程）は心理臨床学分野、人間発達学分野、生活環境学分野、生活材料学分野、生活管理学分野の5つの分野を柱として構成されており、指導にあたる教員の専門分野に従って教育・研究の内容は幅広く、柔軟性があります。3年で博士（学術）の学位を取得することを目指すため、指導教員とはもとより、各科目の担当教員との密接な連携により、広い分野の知識と経験を積むことが可能です。また、客員教授、非常勤講師陣も充実しており、専門的学問の追求が行いやすい環境となっています。意欲ある学生の入学を期待しています。これまでに、63名（論文博士を含む）の博士が誕生し、大学・研究機関・社会で活躍しています。

学生メッセージ

40代半ばにして博士課程に入学しました。現在は新型コロナウイルス感染症の呼吸療法等に用いられる腹臥位姿勢について、種々生体計測の手法を用い、褥瘡等の合併症が少なく安楽な腹臥位姿勢が提案できるよう研究を進めています。

だいぶ遅咲きの入学ではありますが、この年になった今だからこそ自分が本当にやりたいことを行っていると感じます。そして、私のやりたい研究に対し親身に相談にのっていただける指導教員の存在、新たな視点や手法のアドバイスをいただける環境は、本当に充実した日々だと実感しています。





児童学児童教育学専攻 修士課程

Master's Program in Child Care, Education and Science

変動の激しい現代社会の中におかれた子どもの成長と発達を的確にとらえ、子どもを健全に育成するための環境と方法についての深い学識と専門技術を修得するとともに、研究能力と実践技術をもつ人材を育成します。

現代社会における乳幼児や児童の問題を探究する研究者を育成するとともに、家庭での教育を基盤とし、家庭との連携を密にしつつ、保育所、幼稚園、小学校などにおける子どもの育ちを支えることのできる、感性豊かな研究的実践者を養成します。

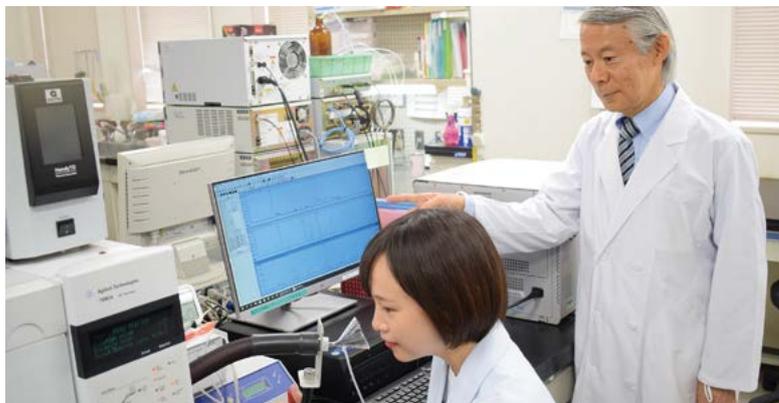
当専攻では、「子育て」や「子どもの育ち」にかかわる現代的な課題に即して学習と研究を深められるように、「保育学分野」「保育実践学分野」「育児支援学分野」「子ども臨床学分野」「教育実践学分野」「学校教育学分野」の6分野を設定しました。

院生の出身学部は様々で、なかには幼稚園等での教職経験のある人もいます。ともに学ぶことで実践と理論における児童学児童教育学の重要性について考えることができます。

学生メッセージ

「困難を抱える子どもへの援助について研究した成果を今後に生かしたい」

幼稚園教諭として働いてきましたが、経験だけを頼りにしてきた面があると感じ、自らの保育を振り返ってみたいと思って大学院に進みました。研究テーマに選んだのは「特別な配慮を要する子を含んだ幼児期の集団における人間関係の構築」です。保育現場で見てきた、子ども同士の間関係の構築に困難を抱える子どもたちに、保育者ができることを考えてみたいと思いました。豊富な保育経験をもつ方へのインタビューから皆さんの実践知(現場で適切な判断を下せる能力)を明らかにしています。今後は保育者養成校で後進の育成にあたることで、役立てていきたいと思っています。



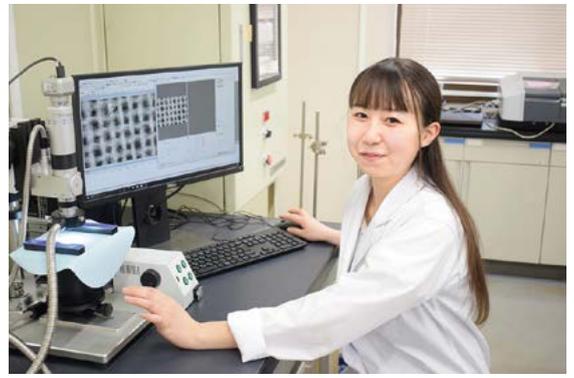
健康栄養学専攻 修士課程

Master's Program in Health and Nutrition

近年は食物加工技術の高度化等により多様な食品の選択が可能となり、国民の食生活は大変豊かになっています。しかし一方で、現代の食生活が、飽食や食事内容のアンバランスといった問題点をはらみ、私たちの健康を脅かしている事にも注目が必要です。健康栄養学専攻では、健康に関わる諸問題について、食や栄養を始めとした多様な視点から研究を行います。食や栄養には健康に関わる無限のポテンシャルが秘められています。指導教員のサポートのもと、自ら課題を見出し研究に携わることで科学的な思考の過程を習得し、高度専門的職業人、具体的には各分野で指導的立場に立つことのできる人材となることを目指しましょう。大学院の教育では広く高度な知識と技能を身につけるため、食品栄養調理科学分野、生命科学分野、実践研究分野の3分野で多くの講座を開講し、高度専門技術修得のための科目も置いています。このように研究能力の育成とともに、実践的技術を修得した人材を社会に送り出すことが私達教員の使命です。大学院であなたの持つ可能性を大きく広げて下さい。

学生メッセージ

食品中における成分について、分析機器や官能評価を用いて研究しています。私は「ウコン」に着目しています。ウコンは健康に有効な成分を含んでいますが、日本人にはあまり馴染みある食材ではありません。ウコンがより身近な食品素材になれば、普段の食事から人々の健康に貢献できると考えました。そこで、GC/MSという機械を用いてウコンの成分を分子レベルで特定したり、ウコンに対する私たちの嗜好を官能評価によって調査したりしています。得られた結果をもとに、学会発表にもチャレンジしています。研究や学会発表に挑戦することで、自身の知識・経験を豊かにし、人々の健康に貢献していきたいと考えています。



造形学専攻 修士課程

Master's Program in Clothing & Art

本専攻では、服飾美術と造形表現の2つの分野を設置しています。学部での学修を継続的に発展させながら、研究対象に応じて2分野の相互乗り入れが可能な柔軟な構造を持つ教育体制です。変化し続ける人間生活に適合する質的・文化的豊かさを求めて、造形の広範な表現技術と科学の可能性を探り、高度な専門知識と研究能力および実践力を持つ人材の育成を目標としています。

服飾美術分野には、被服科学・服飾造形学・服飾デザイン学・服飾文化の区分を設定し講義、演習、実験を配し、造形表現分野にはメディア表現・表現と社会・美術史・工芸・平面表現・空間表現の6系列を設定し問題点を捉えた独自の研究活動や創作活動を行い、さらに総合的研究課題にも取り組んでいきます。

最先端の高度専門機器や、時間をかけて蒐集されてきた本学図書館の稀覯蔵書や博物館の所蔵品などを有効活用しながら、経験豊富な指導教員のもとで各自のテーマを深く掘り下げ、大学院ならではの充実した学びを通して視野を広げ、人の心を揺さぶる発信力を身につけていきましょう。



学生メッセージ

「多糖類ナノクリスタルを利用した機能性を脱着可能な布の新規加工法に関する研究」

近年、世界的に環境汚染問題や資源の枯渇などといった問題が多く挙げられ、SDGsへの取り組みが盛んに行われていることから、天然繊維布の改質をテーマに研究を進めております。修士課程では、大学在学時よりも専門的な授業を受けながら研究に時間を費やすことができ、さらに専修免許の取得も目指しています。学会で研究成果を発表し、論文を投稿するという経験を重ねることで多くの学びを得ることが出来ます。今後は、大学院で学んだことを活かして研究者や教育者になることを目標としております。

英語・英語教育研究専攻 修士課程

Master's Program in English Language and Culture

本専攻は国際化が著しい国内外の諸分野で活躍できる人材の育成を目指します。それは、高度な英語運用力や異文化への対応力と共に、高い知性と広い視野を持ち、論理的で柔軟な思考力を備えた人材です。

本専攻では、英語教育と英語・英語文学の2分野を設置しています。それぞれの専門分野の研究を行いながらも一方の分野の授業科目を選択履修することもできるので、研究により広い視野を与えることが可能です。将来、研究や教育だけでなく、ビジネスなど国際的場面で活躍するための高度な実践的英語力を育成するための授業も充実しています。それぞれの分野の研究者となるための研究能力を養成するとともに、英語教育の現場で指導的な役割を果たす人材となるための資質を開発します。特に2020年から開始された小学校英語にも対応し、専門領域の知識だけでなく教育学の面からも外国語教育を捉えることのできる卓越した人材を養成します。

本専攻には現職の英語教員も籍を置くことが多く、時間を有効活用できるよう必要な科目を夜間や土曜日の午後を開講するなど少人数ならではの柔軟な対応を行います。

学生メッセージ

学部で教職課程を履修し授業の実践方法を学びました。その中でなぜこの指導法が良いのかと悩むことがありました。そこで、理論を学びたいと大学院進学を決めました。講義では理論を深く学び実践との繋がりを実感しています。現職の先生方と講義を受けているので、現場経験のない私にとって学校現場や生徒の様子など、現場を知ることができる貴重な機会になっています。教授から学ぶだけでなく、他の院生とも互いの研究テーマについて議論を交わし、様々な視点から研究を見つめて修論研究に奮闘する充実した日々を過ごしています。

臨床心理学専攻 修士課程

Master's Program in Clinical Psychology



複雑化した社会における人間関係の諸問題に対応する総合的な力を育成し、高度な専門知識や技術を持つ人材の養成をめざし、医療・教育・産業・司法等の社会のあらゆる領域で柔軟に対応し、適切な援助、介入及び研究のできる臨床心理士と公認心理師を養成します。

本専攻には、必修の臨床心理士基礎分野と、選択の臨床心理士専門分野を設け、理論と実践の両面で、実力を備えた臨床家の養成を目指しています。臨床に関わる諸領域のすぐれたスタッフを揃え、多くの実習科目とバランスの取れたカリキュラムを充実させ、実習施設や提携病院を整備してきました。

本専攻は、前身となる文学研究科心理教育学専攻臨床心理学コースにおいて平成14年度から「臨床心理士第一種指定大学院」に指定され、現在160名以上の修了生が臨床心理士と



して活躍しています。また、平成30年度より始まった公認心理師試験では、公認心理師法附則第2条第1項第1号および第2号による受験資格(Dルート)によって受験し合格した修了生が68名以上います。

学生メッセージ

友人関係や家庭環境、障害などさまざまな悩みを抱え苦しんでいる子どもたちのサポートがしたいと思い、大学院へ進学しました。臨床相談センターや適応指導教室での実習を通して、同じ障害を持っていても、抱えている悩みや症状は本当に一人ひとり異なるのだということを実感しました。それぞれが本当に求めているサポートは何なのか、子どもたちが社会に出て生きていくためにはどんな力が必要なのか、子どもの周りにいる大人たち(保護者や教師など)にはどんな働きかけができるのかなど、一人ひとりの状況に即して考えていく大切さと難しさを日々痛感しています。

学生メッセージ

看護師として勤務していましたが、看護師をはじめ、働く人々に対して心理的な面から支援できる知識や技術を身につけたいと思い、大学院への入学を決めました。各分野に造詣の深い講師の方々による専門的な講義や、臨床で多く用いられる各種心理検査の演習、現場で働くスタッフの方々にアドバイスをいただきながらの心理実習など、臨床心理士や公認心理師として必要な知識や実践的な技術を幅広く学ぶことができています。社会人入学であることへの不安もありましたが、先輩を含め社会人学生も多く安心感があり、現役生とともに学び合いながら充実した学生生活を送っています。

教育福祉学専攻 修士課程

Master's Program in Education and Social Welfare

変化が激しく複雑化した社会における人間関係の諸問題、地域社会における様々な問題に対し、人間関係を調整し、社会資源を有効に使い、ネットワークやチームワークを活用した仕事の進め方により、問題解決を創造的に行うことのできる高度な職業的能力を身につけた人材の育成を目指します。

教育福祉学専攻では、心理学・教育学・社会福祉学の3領域に関する高度で専門的な理論および応用を研究教授し、広い視野に立った学識と研究能力を育成し、高度な職業的能力を養成する教育課程となっています。

特に、社会人を対象とした特別入試制度によって、広く門戸を開放しています。



学生メッセージ

「多くのことに挑戦し自分の可能性を広げたい」

長年児童館の仕事をしてきました。利用者に向き合っ、職場の仲間たちと行事や活動を企画し実施してきました。利用者にとってそれがどのような意味や効果を持つのかを知りたいと考え、入学しました。児童館の幼児の親子の活動に着目し、参与観察をしました。ビデオ撮影をしましたので、逐語録化をし、分析をして示したいと思っています。ここでは、観察、ビデオ撮影、パワーポイント等に初挑戦しました。福祉の現場でずっと働いていましたので、今後も人のために役に立ちたいと考えています。

入学時納入金

(令和4年度実績)

納入金項目	金額	備考
入学金	150,000円	本学卒業生は入学金免除
授業料(前期分)	330,000円	年額660,000円
施設設備維持充実費(前期分)	100,000円	年額200,000円
後援会費	25,000円	入会金15,000円、年会費10,000円(本学卒業生は年会費のみ)
合計	605,000円	本学卒業生の入学時納入金は440,000円

奨学金

日本学生支援機構奨学金、渡辺学園三木奨学金、石川梅子(むめ)奨学金および渡辺学園後援会奨学金、松井正子奨励金などがあります。

特色・制度

◆大学院生研究助成制度

大学院生の学会発表を奨励するため、「大学院生研究助成制度」を設けています。学会発表経費は全額助成、学会参加の場合は3万円までの経費助成が受けられます。フィールドワークその他、学外研究活動経費も助成されます。

◆長期履修学生制度

修士課程において、学生が職業を有している、教職免許の取得を希望する等の事情により、3年または4年の期間にわたり計画的に教育課程を履修する長期履修学生制度を導入しています。2年分の学費で長期に在学し、修了することができます。

◆開講時間について

社会人入学者等の履修に配慮して、18:00以降の時限や土曜日に授業を開講しています。また、履修者と相談の上、授業を開講する科目も設定しています。

主な学会発表、学会参加

日本家政学会、日本健康・栄養システム学会、ESPEN、日本食生活学会、繊維学会、洗浄に関するシンポジウム、日本発達心理学会 [以上学会発表]

日本公衆衛生学会、日本食生活学会、日本官能評価学会、ASIA PACIFIC CONFERENCE ON CLINICAL NUTRITION、日本災害医学会、日本認知・行動療学会 [以上学会参加]

主な学外研究活動

論文関係調査・技術指導ほか(国立研究所、企業、国立大学、公立小学校、展示会、実験・測定調査) / 学外実習(国立病院、私立大学病院、私立病院、クリニック、教育支援センター、適応指導教室、福祉園) / 講習会(学会等ワークショップ・セミナー、統計学セミナー、食品講習会) / 学外授業(国立病院見学(栄養管理)、フォーラム参加) / 個展・展覧会

就職状況 修了生

人間生活学専攻(博士)	【東京都立特別支援学校(教員)】、【東京家政大学(特任教授・准教授・非常勤講師・助教)】、東京家政大学短期大学部(講師)、東都医療大学(教員)、【松蔭大学(教員)】、新渡戸文化短期大学(教員)、【東京家政学院大学(教員)】、常磐大学(教員)、【帝京大学病院(管理栄養士)】、(株)エフシージー総合研究所(研究者)、島根県立大学(教員)
児童学児童教育学専攻	【東京立正短期大学(教員)】、東京教育専門学校(非常勤講師)、【田園調布ルーテル幼稚園(教員)】、大妻女子大学(助教)、文京区(指導員)、東北生活文化短期大学部(講師)、群馬医療福祉大学(講師)、【東京家政大学わかさグループ(保育士)】、東京家政大学(非常勤講師・助教・助手)、(一財)日本保育学会、(株)ヤクルト本社、明德やちまたこども園(教諭)、東京未来大学(教員)
健康栄養学専攻	東洋水産(株)、ヤフー(株)、【(福)目黒区社会福祉事業団(管理栄養士)】、【自然派パン工房ぶれっちえる】、JFEライフ(株)、ニプロファーマ(株)、東京家政大学(助教)、【東邦大学医療センター大森病院(管理栄養士)】、【盛岡大学(教員)】、【帝京大学病院(栄養士)】、【淑徳大学(教員)】、【都立広尾病院(管理栄養士)】、【(医)松井病院(管理栄養士)】、(株)ありあけ、シミックヘルスケア・インスティテュート(株)、(一財)日本食品分析センター、フジビングループ本社(株)、【サンフラワー・A(株)(管理栄養士)】
造形学専攻	千葉県公立高等学校(教員)、東京都立小学校(教員)、埼玉県公立中学校(教員・非常勤)、(株)日進化成、三井化学(株)、(株)宝塚舞台、(有)芸術による教育の会、東京家政大学(助教・助手)
英語・英語教育研究専攻	【東京都立中学校(教員)】、【神奈川県立中学校(教員)】、【埼玉県公立高等学校(教員)】、【立正大学附属立正高等学校(教員)】
臨床心理学専攻	【千葉県立中学校(教員)】、LITALICOジュニア(児童指導員)、鷺宮すこやか福祉センター(心理職)、入間市教育センター(心理職)、【東京都立高等学校(教員)】、さいたま市こども家庭総合センター(指導員)、東京家政大学(非常勤講師・助教・助手)、東京都立中学校(相談員)、千葉市教育センター適応指導教室(指導員)、さいたま市公立小学校(教員)、戸田市教育委員会(相談員)、東京都教育電話相談センター(相談員)、津軽保健生活協同組合(心理職)、千葉県(心理職)、SNG児童家庭支援センター(相談員)、世田谷区発達障害相談・療育センター(心理職)、(医)東京愛成会高月病院(心理士)、所沢市教育委員会(スクールカウンセラー)、東京都足立区こども支援センターげんき(相談員)、埼玉県立中学校(相談員)
教育福祉学専攻	東京都(福祉職)、【日本経済大学】、北区こども家庭支援センター(支援職)

過去の主な就職先 ※【 】は現職社会人修了生

●大学の学生支援センター(16号館1F)に、大学院生の就職相談窓口を設置しています。

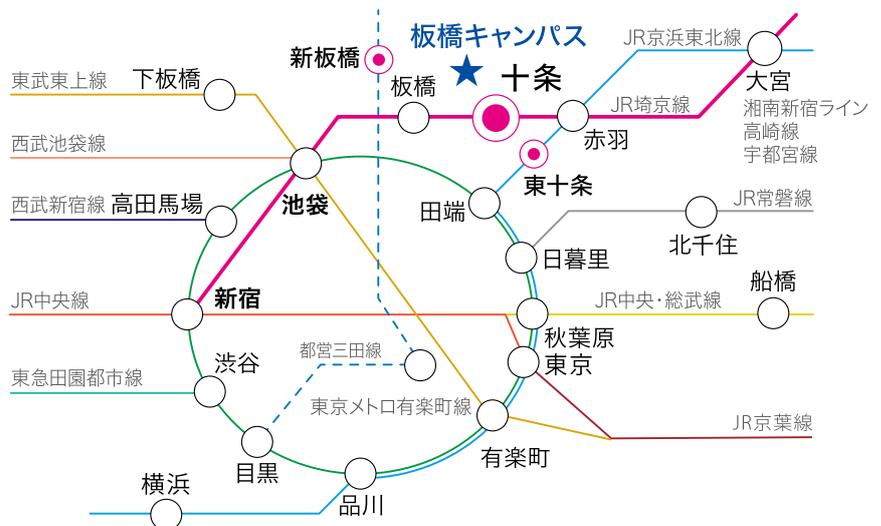


【入試について】

全専攻1期・2期 一般入試／社会人特別入試の詳細は「学生募集要項」またはホームページをご覧ください。

アクセス

- JR 埼京線「十条駅」から 徒歩5分
- 地下鉄都営三田線「新板橋駅」から 徒歩12分
- JR 京浜東北線「東十条駅」から 徒歩15分



東京家政大学大学院 事務室

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 Tel. 03-3961-3473 / Fax. 03-3961-5260

URL <https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/graduate/index.html>

E-mail daigakuin@tokyo-kasei.ac.jp

